「火事場泥棒」を許すな
コロナ禍で求められる公正さ

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業主に対し、国から支給される持続化給付金の事務事業をめぐり、大手広告代理店とその子会社、パソナなどを通じた再委託や外注による「中抜き」が疑われています。公正取引が求められる現代において、日本の重層下請け構造を考えます。

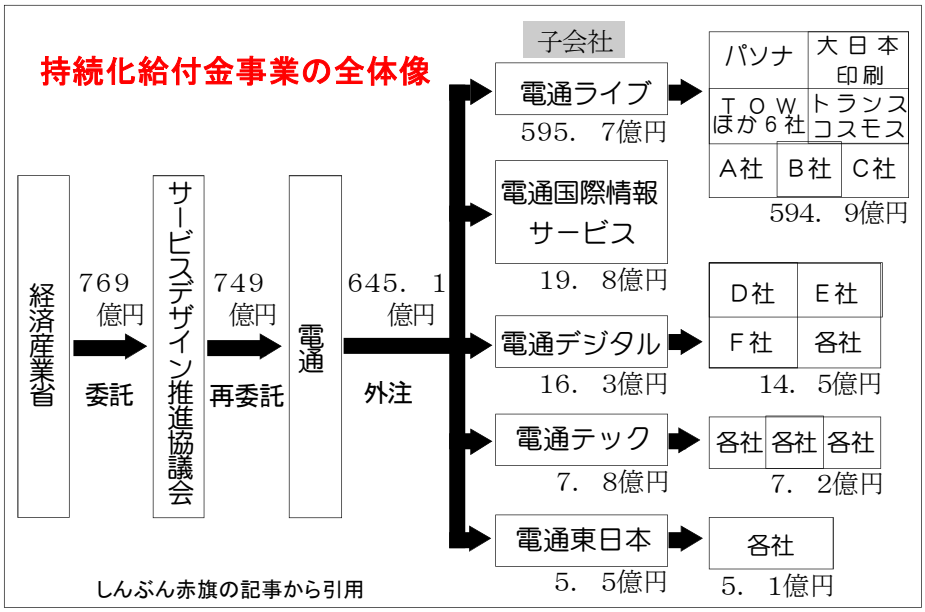
委託と外注による「中抜き」

経済産業省が発注した持続化給付金の事務事業は、電通や人材派遣大手のパソナなどが理事や社員として構成するサービスデザイン推進協議会に769億円で委託されています。同協議会は委託費の97％・749億円で電通に再委託し、さらに再委託された電通から電通子会社の電通ライブなどに事業を外注、その後、パソナや大日本印刷など13社に外注されています。その間に、107億5000万円が「中抜き」されたのではないかと疑われています。

コロナ禍すら儲けに変える構造

この間、建設業界では重層下請け構造による「中抜き」が問題となり、公正取引が求められるようになってきました。しかし、重層下請け構造による「中抜き」は、建設業にとどまらず、日本社会に蔓延していることが明らかとなりました。その根本的な要因は、コロナ禍すらも儲けに変えようとする巨大企業と政治の結びつきがあります。

今回の外注先となってパソナの代表取締役社長は、安倍政権のブレーンでもある竹中平蔵氏であり、「未来投資会議」の民間委員も務める人物です。未曽有の事態ですら税金を儲けに変える大企業の姿勢が問われます。



公務員賃金引き下げ反対

公務労組連絡会が要請

6月19日、自治労連や全教、国公労連などで構成する、公務労組連絡会（中央）は、全国人事委員会連合会へコロナ禍だからこそ公務員の賃金を引き上げることなどを要請しました。民間給与実態調査の実施が遅れる中、公務職場で働く労働者の意義とともに、地域経済への影響について訴えました。

生命とくらしを守る自治体の責任

今回のコロナ禍の中で、「新自由主義」の弊害が顕著に表れています。その一つが「対策」と「補償」です。オリンピック延期が決定されるまで、閣僚や小池知事は「延期はあり得ない」とし、国民のくらしよりも経済対策が優先されてきました。延期が決まれば、政府主導による「自粛」や「休校要請」が行われる一方で、補償は自治体任せにされました。公的支援の投入を最後まで渋り、対策は二転三転しました。その間、地方自治体で働く職員は、正規・非正規を問わず住民のいのちとくらしを守るために奮闘してきました。

公務員の賃下げ地域経済に打撃

2011年の東日本大震災の際、政府は国家公務員の（2面に続く）

高知県労連
№２３３
発行：高知県労連書記局
住所：高知市丸ノ内2-1-10
〒780-0850　高知城ホール３階
［TEL］088-872-3406
［FAX］088-822-7969

針路

私の祖母の兄は満州で亡くなっている。満州へ国境警備隊として派兵され、終戦間際に3年の兵役を終えると、実家の農業を継ぐつもりだった。しかし、当時の日本の戦況は厳しさを増し、兵役を終えて日本に戻ってもすぐにフィリピンなどの南方へ徴兵される可能性があるため、安全だった満州に残ると手紙を家族に送ってきたそうだ▼しかし、8月6日に広島、9日に長崎へ原子爆弾が投下され、状況は一変した。不可侵条約を結んでいたソ連が、終戦後の覇権や領土を獲得するため、満州に攻め込んできたのだ。祖母の兄は、避難のために村人を連れて南下したが、長崎への原爆投下から4日後の8月13日、ソ連軍の攻撃を受けて亡くなった▼くしくも、祖母の姉の夫も8月13日に亡くなっている。彼は南方に徴兵されていたため、亡くなった正確な日が分からず、「8月13日にした」と役場から連絡があったそうだ▼終戦から75年を迎え、私たちにとって戦争や核兵器は遠い世界のことように感じることも多いが、意外と近くにその爪痕は残っている。このことを教えてくれた祖母の弟は92歳。「戦争はダメだ」と94歳で亡くなった祖母と同じことを言った（牧）

高知

最低賃金について局長が諮問
コロナ禍「だからこそ」引上げを

最低賃金の金額審議が本格化

7月2日、高知地方最低賃金審議会は、高知労働局の柳澤局長から2020年の「高知県最低賃金の改正決定」についての諮問を受けました。これから、新しい最低賃金額の10月1日の発効に向け「政・労・使」で議論が進められていきます。

異例の「諮問」

通常であれば、審議会の中で諮問文とともに「2010年の政・労・使合意を踏まえ早期に加重平均1000円以上をめざす」や「この間の民間企業の賃上げ率」といった政府の骨太方針や指標などの資料が配布されます。しかし、今回の諮問では、柳澤労働局長から口頭で政府方針に触れたのみとなりました。

引き上げの流れを止めるな

これは、裏を返せば「今年の最低賃金の引き上げは困難」というメッセージとも取られかねません。

この間、「地方と都市部」、「正規と非正規」、「大企業と中小零細企業」、「男女」など様々な「格差」の問題がクローズアップされ、その中で最低賃金は「格差」を埋める施策の一つとして、毎年20円を超える引き上げが進められてきました。

今この流れを止めてしまえば、「格差」という社会的問題は温存されたまま、人口流出や地域経済の疲弊に歯止めをかけることはできません。コロナ禍「だからこそ」賃上げできる支援を国がすべきです。

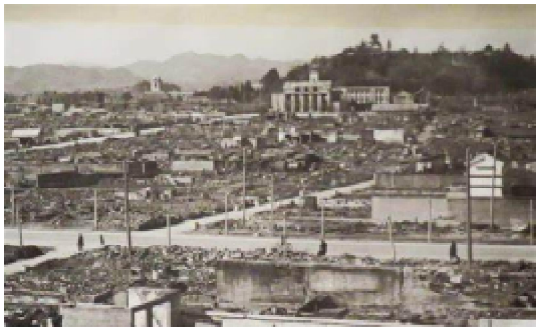
（1面の続き）賃金を平均7・8％引き下げました。人事院勧告（マイナス0・23％）を無視した引き下げは、当時大変大きな問題となりました。結果、約625万人もの労働者が影響を受け、地域経済はさらに冷え込み、復興の足かせとなりました。

今回のコロナ禍の中で、公務員賃金引き下げの懸念も持たれています。9年前の教訓を活かし、「賃下げではなく賃上げによる地域経済の復興」を進めましょう。

現在審議されている地方の最低賃金についても、「今だからこそ」引き上げることで地域経済の底上げを進め好循環を生み出すサイクルを作っていきましょう。

高知大空襲を風化させない

7月4日は何の日かご存じですか。1945年7月4日は高知大空襲が起こった日です。B-29爆撃機125機が高知市上空に飛来し、1060・8米トンの焼夷弾を投下しました。この攻撃による死者は401人、重傷者95人、軽症者194人、不明者22人となっています。1万2000戸近い家が全焼壊となり、市街地の40％が焼失しました。今も高知市内には、戦跡が残っています。機会があればぜひ見に行ってみてください。



高知大空襲後の高知市（奥の建物は追手前高校）

①織田歯科（升形）

織田歯科は大正14年に建てられたルネッサンス風の貴重な建物で、空襲を受けながらも、その一角だけは焼け残りました。その際、塀にできた焼夷弾による焼け跡は、当時のことを風化させないために今も残されています。

②菜園場橋の爆弾の後（菜園場）

1945年6月15日の小規模な空襲の際、B29が投下した爆弾（焼夷弾・不発弾）が橋を支えているアーチ形の鉄製トラスを直撃しました。かるぼーとの建設に伴い、撤去されることとなっていましたが、市民運動によって隣接される公園にモニュメントとして保存されました。この橋を製作した谷村工作所は、1945年7月4日の高知市大空襲で工場が全焼したため廃業しました。

③戦火をくぐり抜けたソテツ（追手前小学校）

追手前小学校（当時は第三国民学校）は、1945年7月4日の高知市大空襲によって完全に焼失しました。植えてあったソテツも焼かれましたが、1株のソテツが芽を吹き返し、追手前小学校のシンボルとして校庭に残されました。現在は、オーテピア横に残されています。

菜園場橋のモニュメント
（2017 年に県労連青年部が撮影）

④追手前高校時計台（追手筋）

1945年7月4日の大空襲によって、講堂、柔道室、剣道室、武器庫、体育館、体力増進館、高知一中校友会館、小使室を焼失しましたが、本館だけが残りました。追手前高校百年史には、戦争中（1945年）の宿直日誌の中で、1945年5月13日から14日にかけた空襲によって、時計台の壁面に無数の弾痕が残ったことが示されています。現在は表面を塗り替えて見えなくなっていますが、上塗りの下には、今でも弾痕が残っている可能性があります。ちなみに、追手前高校の屋上には昭和天皇の御真影がまつられた奉安殿が作られ、毎日の朝礼や登退時には必ず奉安殿に最敬礼することが義務付けられ、天皇を神格化していきました。

県労連３０年を振り返る
県労連結成から地方労働委員獲得まで①

執筆者
元県労連委員長　國松　勝

地方労働委員会
民主化のたたかい

県労連結成後、臨調行革路線とのたたかいとあわせ、重視して取り組んだのは、地方労働委員会（以下「地労委」）へ県労連から労働者側委員を送ることでした。

県労連の源流である統一労組懇の結成以前から、県内には多くの労働争議があり、統一労組懇加盟の組合は不当労働行為とたたかう争議を積極的に支援してきました。

土佐自動車学校争議やRKC高知放送争議、四銀争議、自交総連や高知一般のハイタク争議、高知一般の新山本造船争議や未組織労働者への権利侵害などとのたたかいでした。

こうした争議の支援を有効にすすめるため、争議支援連絡会をつくり争議組合と支援組合との連絡調整と連携、支援強化を図ってきました。その多くは、地労委や裁判所に持ち込まれるケースも多く、地労委が公正な調整、斡旋機能を発揮することが強く求められており、地労委へ県労連の労働者側委員を送ることは労働者の権利を守るうえで、大変重要な喫緊の課題でした。特に県労連を結成後の県労連から労働者側委員を送るたたかいは、高知県内だけのたたかいでなく、全国的に、全労連の排除を画策する政府・労働省と、これに同調する連合、財界との激しい闘いでもありました。

橋本知事への申し入れから労働者側委員獲得まで～知事の英断

県労連は結成以来、県に対し地労委の労働者側委員に県労連の代表を加えるよう要求してきました。県議会でも公正、民主的な労働行政を求め、共産党県議団の支援も要請し、高知法律事務所にも支援と協力をお願いして、世論形成を積極的に進めました。

1991年橋本県政が誕生して間もない時期、知事への申し入れの席で、わたしは県労連委員長として、地労委の労働者側委員選任に際し、連合が5人の委員を独占している現状は、選任にあたって、産別、系統別の組合数、組合員数に比例させるように求めている（1949年次官通牒）に違反しているだけでなく、地労委の本来の機能を損ねる非民主的な措置であり、是正すべきであること。また、連合結成以前は、県評3、同盟2の配分であったにもかかわらず、これを無視して、連合高知が独占し、県労連を排除することは、民主主義を破壊するもので許されない、と語気強く訴えました。知事は訴えに耳を傾け、熱心にメモを取り、「民主主義を破壊する」という言葉に強く反応を示したことをいまも鮮明に覚えています。

1993年1月18日付高知新聞朝刊は、一面で「県地労委の労働者側委員初の県労連系任命へ、連合高知、経営側は反発」と4段抜きで報じました。これから1年1ヶ月にわたり、地労委民主化のたたかいが続けられたのでした。

連合高知と県経営者協会の抵抗

地労委委員の任期切れを1月末に控え、高知新聞は、「県は連合高知（岡林重清会長）系で独占していた労働者側委員5人のうち1人を、連合路線と対立する県労連（國松勝委員長）系から初めて選任することを内定した。18日にも委員リストを関係団体に通知するが、この方針に連合高知や県経営者協会（入交太二郎会長）などは強く反発。連合側は対抗上、公益側委員への同意を見送る構えを見せており、全国的な『全労連系排除』の構図に風穴が開く意味合いからも、波紋は県内外に大きく広がりそうだ」と報じました。同時に、「県は、内定した労使双方の委員から公益側委員の候補者への同意を取り付けたうえで、2月1日の正式任命を目指していたが、難航必至の情勢」とも指摘。

県の調査では、県内労働組合員のうち連合高知系は3万2000人弱、全労連系は1万1000人強で組合員比率は、ほぼ3対1であり、連合高知3に対し県労連2が妥当な配分です。

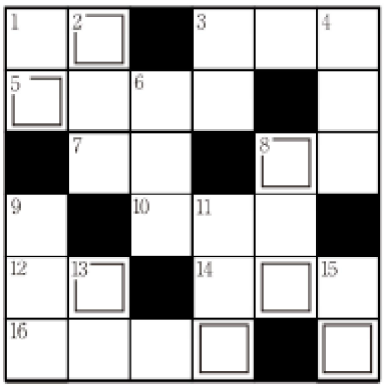
高知新聞の報道によれば、今回の方針について任命権者である橋本知事は、「条件を詰めていくと、県労連系を排除する理由はみあたらない。もとより民主主義は、面倒でも少数派を交えて話し合うのが筋。常識の範囲内で納得できる委員構成が必要だ」と説明。自らの意向を、今回の選任作業に強く反映させたと報道しました（以上、高知新聞1993年1月18日）。

県労連公式キャラクター「ローレンジャー」登場!!

労働者の暮らしが一向に良くならない中、県労連は全労連の知恵と財政に支えられ、団結のパワー、公正な心、公平な視点を持った「ローレンジャー」を作り出し、日本と高知の平和と労働条件を守る取り組みを始めた！今回は、そのリーダー的存在である「団結レッド」をご紹介するぞ！今後、クリアファイルやポスター、シールを使って県労連の取り組みを紹介していくぞ！

彼は「団結レッド」です

クロスワードパズル



カギを解き二重枠の文字を並べてできる言葉は？

【タテのカギ】①糖に――　②性質が違う。これまでの危機とは――　③エッフェル――　④丁稚。何と読む？　⑥陰気の対　⑧結婚――日　⑨小差の対　⑪月の照っている夜　⑬音読みと――読み　⑮栗鼠。何と読む？

【ヨコのカギ】
①後悔　③遠方へ出かけること　⑤氏名や身分などを偽って言うこと　⑦――と言えばかあ　⑧ウイット。――に富む　⑩――と狸の化かし合い　⑫――同音に発する　⑭利子。――の引き下げ　⑯小粒でもピリリと辛い

クロスワードパズル 図書券プレゼント

《応募方法》

クロスワードの答えと、機関紙の感想、組合名、郵便番号、住所、氏名、年齢を記入の上、県労連書記局宛にお送り下さい。

抽選で3名にＱＵＯカードをプレゼントします。（ハガキ、ＦＡＸ、ｅメール［高知県労連ＨＰに記載しています］）締め切りは８月６日までとなります。

当選者の発表

２３２号のクロスワードパズルの答えは「アマガエル」でした。当選者は左の通りです。

【当選者】

中川　美幸　さん（自治労連）
松浦　俊輔　さん（県国公）
吉本　孝史　さん（自治労連）

申し訳ありませんが、事務の都合上、ＱＵＯカードの発送が遅れております。ご了承ください。

おたよりの紹介

○労働組合の決起大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり、例年よりも短縮されましたが、仲間と一緒に掛け声を出した瞬間の一体感は毎年の良い思い出です。自治労連（N・T）

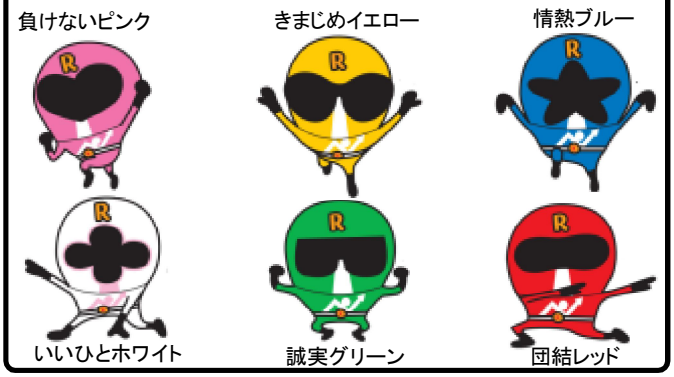
○DIYで棚を作ったというステキな記事、拝読いたしました。私もおうち時間を利用して、DIYにトライしようと計画中です。トイレをオシャレ空間にしようと企んでます。 カベ紙や床を変えたくて、ホームセンターに行ったりするのが楽しいです。 自治労連（M・N）

○あまがえるの雨乞いが澄んだ空気を震わせます。かえるの声を「うるさい」と感じるのか、「夏が来た、 気持ちが良い声」と感じるかは、自分の気持ち、その時の心持ちひとつですね。自治労連（R・M）

○コロナ関連の動きが参考になります。 自治労連（T・Y）

「ローレンジャー」4コマ漫画を募集!

ローレンジャーをモチーフにした4コマ漫画を募集します。採用者にはQUOカードをプレゼント！県労連eメールに画像や写真をお送りください。（※3M以上は受けれません）



「なかま」高知県医労連

高知県医療労働組合連合会（医労連）は、県内の病院や施設で働く職員で構成されている組織です。医療現場では「人員不足・低賃金・過重労働」など深刻な状況が続いていますが、患者さん、利用者さんやその家族が安心で安全な暮らしができるよう、また医療従事者が安定した生活が送れるように環境改善に向けて、日々コツコツと活動をしています。

この数年、執行部のメンバーも若返り思うような活動ができていませんが、若い力と知恵、発想を存分に発揮しながら「明るく！楽しく！真剣に！」活動を続けて笑顔があふれる医療現場を築いていきますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

医労連は【一人一役、全員主役】をモットーに掲げています。

高知県医療労働組合連合会
執行委員長　武樋　匡英

さめうらユニオンの定期大会の様子